



東洋大学

ISSN 1881-0276

ライフデザイン学研究

Journal of Human Life Design

第 9 号

東 洋 大 学

ライフデザイン学部

目次

巻頭言	
改めて学部設立の趣旨確認を……………	小林 英義 3
退職者のメッセージ	
ライフデザイン学部 生活支援学科での9年間 ～1人ひとりがこころ豊かな人生を過ごせるために～……………	柴田 範子 4
The Power of Reminiscence Groups to Overcome the Disaster of Tsunami……………	野村 豊子 5
論文	
特別養護老人ホーム待機者の療養過程に関する研究 —A市特別養護老人ホームAの待機者家族へのインタビュー調査から(2) 待機者家族が求める家族介護者支援— ……………	浅野いずみ/辻 泰代/吉浦 輪 9
深い悲しみからの回復過程における創作活動の効果に関する研究……………	池田千登勢 29
日本における条約難民の定住促進のための公的援助の課題 —アメリカにおける公的援助との比較をつうじて—……………	荻野 剛史 47
バリアフリー基本構想の市民提案制度の課題……………	神吉 優美 57
フランス中世末期における恩寵聖母の信仰と美術……………	菊地 章太 83
岡山孤児院の里預制と地区世話役の登場 —御津郡馬屋下村の事例を中心に—……………	菊池 義昭 97
ブラウン社T4スピーカーグリルについての考察 —生成的デザイン手法を用いて—……………	北 真吾 119
短期間不動後の運動がラット脛骨の海綿骨の構造に及ぼす影響 ……………	日下 翔太/高橋 将人/大迫 正文 137
行動科学手法を用いた転倒不安感対策プログラムが身体機能および転倒不安感 に及ぼす効果……………	神野 宏司/浅井 英典 151
高等学校におけるスクールソーシャルワークの展開 —学校コンサルテーションの実践を通して—……………	是枝喜代治 161
自閉症スペクトラム障害児の会話の維持機能を促す支援……………	篠沢 薫 179
成年後見制度の社会化—被後見人の自己決定・自己選択の支援をめぐって ……………	菅田 理一 191
琉球政府児童福祉法の成立過程に関する一考察 —渡真利源吉の働きを中心に—……………	鈴木 崇之 199
TSV(バイヤー社体操—スポーツクラブ)の子どもスポーツ部門に関する調査研究 ……………	鈴木 智子/嶋崎 博嗣/松尾 順一 233
製作コーナーを基盤にした3歳児保育の意義とその実践 —同調的動作共有による集団形成と遊びの展開— ……………	高橋 健介/中山 昌樹/中田 幸子/猪越 恵美 269

Study on Structural Changes in Tibial Cancellous Bone with Mechanical Loading After Short-term Immobilization in Rats …………… TAKAHASHI Masato, NISHIMOTO Tetsuya, OHSAKO Masafumi	285
特別養護老人ホーム入居待機者の療養過程に関する研究（その1） －待機者の他施設への申込み実態－…辻 泰代／浅野いずみ／吉浦 輪	303
絵本における医療場面の描かれ方……………西村 実穂／北野 雅	319
発育期ラットにおける筋付着部の骨構造に及ぼすメカニカルストレスの影響 ……………西本 哲也／高橋 将人／大迫 正文	333
日本人と議論－映画『12人の優しい日本人』を題材に－……………深谷 秀樹	349
難民として来日した人たちの「暮らし」「こころ」「福祉」……………三木 良子	365
変革するデンマークの24時間ホームケア……………渡辺 裕美	383
総 説	
飯盒の歴史と機能について……………坂口 正治	409
研究ノート	
先駆的取り組みをしている小規模多機能型居宅介護事業所の実態と、 その介護サービスを利用している複数家族へ茶話会等を通して ケアへの思いを聞く……………柴田 範子	417
研究資料	
日本における障害者バドミントンの現在と今後の課題－私案として－…金子 元彦	443
ライフデザイン学部プロジェクト研究報告	
バイエル社体操・スポーツクラブにおける健康運動プログラムおよびその 指導法に関する調査研究－障がい者スポーツ部門・子どもスポーツ 部門・健康スポーツ部門を対象にして－ ……………松尾 順一 米田 郁夫／杉田記代子／嶋崎 博嗣／古川 覚／ 金子 元彦／鈴木 智子	453
鎌倉市アクティブシニアプログラム ……………野村 豊子 神野 宏司／山本 美香	465
視覚障がい者のホーム転落事故防止システムに関する基礎的研究 ……………高橋 良至 北 真吾／高橋 儀平	471
介護・看取りから死の過程における高齢者の生活支援施策に関する調査研究 －日本と韓国の比較検討－ ……………高野 龍昭 井上 治代／木内 明	475
東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規……………	487
東洋大学ライフデザイン学部紀要査読制度内規……………	490
東洋大学ライフデザイン学部紀要原稿執筆要領……………	492

東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規

平成17年4月1日 施行

平成19年4月1日 改正

(目的)

第1条 東洋大学ライフデザイン学部紀要『ライフデザイン学研究』（以下「紀要」という。）はライフデザイン学部（以下「学部」という。）の教育と研究を促進し、教員を中心としたそれらの成果発表の場として、さらに「ライフデザイン学」の形成とその発展に寄与することを目的とし、関連の論文、研究ノート、書評、研究展望、学部教育に関する諸活動報告等を掲載発表する。

(刊行物と編集)

第2条 学部で刊行する紀要はライフデザイン学部紀要編集委員会（以下「委員会」という。）内規第4条による。

(投稿資格)

第3条 紀要に投稿できる者は原則として学部の専任教員とする。ただし、以下の場合には、委員会の判断で受け入れることができる。

- (1) 委員会において特別に依頼する場合
- (2) 学部専任教員が代表である共同執筆原稿の場合
- (3) 掲載余地があり、学部非常勤講師から希望があった場合
- (4) 学部生の執筆で学科の推薦を得たもの
- (5) 研究科生による修士論文あるいは博士論文で専攻の推薦を得たもの

(原稿の種類)

第4条 この紀要に投稿できる原稿の種類は、次のとおりとし、未発表の原稿に限ることとする。

種 類	内 容
1. 総説	ライフデザイン学全般もしくは個別領域にかかわる総括的論述
2. 論文	オリジナルな研究成果をまとめたもの（査読対象とする）
3. 研究ノート	研究の中間報告、覚書および新しい研究方法についての報告、翻訳（投稿者の依頼があった場合、査読対象とする）
4. 書 評	書籍、文献の批評、紹介
5. 研究展望	それぞれの研究分野の成果をまとめたもの、研究動向を展望したもの
6. 学部活動記録	当該年度の学部活動を報告する内容のもの
7. 学部教育活動への取り組み	学部での教育内容を評価するもの
8. 修士論文（概要）	大学院生の研究成果
9. 学部生の論文（概要）	学部生の学習成果

10. 資料	研究上価値ある資料あるいは新出資料などの紹介・解説
11. 研究報告	社会实践にかかわる活動の研究報告、作品制作の報告、作品解説など
12. 学部プロジェクト研究報告	学部プロジェクト研究の成果を要約して報告するもの

(二重投稿の禁止)

第5条 前条に該当し投稿された第6条に規定する原稿であっても、同一の原稿を本学紀要以外の他紙に投稿することはできない。また二重投稿が判明した場合は掲載を中止する。

2 当該原稿を他紙に投稿する場合は、委員会より正式に不採用の連絡を受けた後に行う。

(申込と締切)

第6条 投稿申込と締切期限は、年1回の刊行の場合は次の各号のとおりとし、年複数回の刊行の場合は、その都度委員会が別に定める。

- (1) 執筆計画の把握のため、別に定める「紀要投稿申込書」を7月末までに委員会が集約する。
- (2) 原稿は、10月第1週水曜日までに委員会に提出する。

(執筆要領)

第7条 原稿の執筆にあたっては、別に定める紀要執筆要領による。

(原稿の査読と掲載の可否)

第8条 査読は別に定める「ライフデザイン学部紀要査読制度内規」に基づき行う。

- 2 掲載の可否は、第1項の結果に基づき、委員会が決定し、投稿者へ結果を連絡する。
- 3 投稿数の制限は定めないが、同一号に原稿が複数採択された場合、次号に繰り延べて掲載することがある。

(補筆と修正)

第9条 委員会は、必要に応じて、執筆者に補筆や修正を求めることができる。

(原稿の返却)

第10条 投稿された原稿は、著者に返却する。

(抜刷)

第11条 著者には電子媒体による抜刷を1部配布する。

(配布先等)

第12条 紀要の配布先は、毎年委員会が定める。

- 2 学部ホームページに電子情報として掲載することができる。また管理サーバー等の掲載条件が可能な範囲でデータは蓄積する。

(原稿料など)

第13条 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。

(著作権等)

第14条 本学部が編集発行する紀要の編集著作権は本学部に帰属する。

- 2 紀要に掲載された個々の著作物の著作権は、当該著作物の著作権者に帰属する。
- 3 紀要に掲載された個々の著作物について、著作権侵害、名誉毀損、またはその他の紛争が生じた場合、当該著作物の著作者を当事者とする。

(改廃)

第15条 本内規の改廃は、教授会の承認を得るものとする。

附則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

東洋大学ライフデザイン学部紀要査読制度内規

平成17年4月1日 施行

平成19年4月1日 改正

(目的)

第1条 本規程は、東洋大学ライフデザイン学部（以下「学部」という。）の刊行する紀要『ライフデザイン学研究』（以下「紀要」という。）と掲載される個々の著作物の質の向上と保証を図ることを目的とし、査読制度により審査を行う。

(査読の対象)

第2条 査読は、論文および投稿者より審査依頼がなされた研究ノートについて行う。査読された原稿についてはその旨を明記する。

(査読の内容)

第3条 審査原稿について、東洋大学ライフデザイン学部紀要編集委員会（以下「委員会」という。）の定めた学部内および学部外各1名の査読員による体裁、学術的内容の査読を行い委員会に結果を報告する。

2 内規第4条の審査を行わない原稿について、委員会が定める学部内の校正委員1名により、体裁、内容の校正について委員会に助言を行う。

(査読員の要件)

第4条 学部内査読員は、学部専任教員とする。

2 学部外査読員は、その著作物の内容についての専門領域における学部外の専門家又は学識者とする。

(査読員の委嘱)

第5条 第3条について、委員会は査読員、校正委員を選出し、学部長により委嘱する。

(査読員の非公開)

第6条 学部内査読員については、いかなる理由であっても公開しない。

2 学部外査読員については、紀要に採択の上、掲載されるときに限り各著作物の巻末に査読員を掲載する。

(審査)

第7条 2名の査読員は、執筆者の原稿について速やかに査読の上審査を行い、ABCで評価する。

Aは「採択（軽微な字句の修正を含む）」、Bは「一部修正の上採択」、Cは「不採択」を意味する。又、その結果を委員会に報告する。

2 2名の査読員がAA、AB、BBの評価の場合は査読審査合格とし、掲載可とする。BC、CCの場合は査読不合格とし、掲載不可とする。ACの場合はさらに第3者に査読を依頼し、A又はBの場合は掲載可とし、Cの場合は不合格とする。

3 査読審査結果は委員長より通知する。

(修正)

第8条 委員会は、上記の審査結果に基づき、採用論文について執筆者に修正を求めることがある。

それ以外は審査後の修正は認めない。

(審査料)

第9条 学部外査読員には次の査読審査料を支払う。

(1) 原稿1本につき10,000円とする。

(改正)

第10条 本内規の改廃は、教授会の承認を得るものとする。

附則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

東洋大学ライフデザイン学部紀要原稿執筆要領

平成17年4月1日 施行

平成19年4月1日 改正

1. 使用言語

使用言語は、特に制限しない。ただし、印刷等にあたり特別の技術を有する言語、査読委員の選出に困難を来す言語、その他の事情を有する言語については、事前に編集委員に相談すること。また母語以外を使用する場合には当該言語のネイティブ・スピーカーによる校閲を受けたうえで提出することとする。

2. 執筆者

投稿資格者は、東洋大学ライフデザイン学部紀要編集内規第2条に定める者とし、共著者がいる場合は氏名の右肩に*印を付けて示すこととする。

3. 要旨及びキーワード等

原稿の本文が日本語の場合には、欧文（英・独・仏のいずれか）の表題、著者名、要旨及びキーワードをつけること。欧文要旨は100～150ワード程度とする。

原稿の本文が英語又はその他の言語の場合には、各言語の要旨、キーワードのほかに、日本語の表題、著者名、要旨及びキーワードをつけること。日本語要旨は600～800字程度とする。

欧文要旨は、当該言語のネイティブ・スピーカーによる校閲を受けることとする。

4. 本文及び脚注・注

本文は原則として横書きとし、英語の場合はダブルスペースで記述する。原稿用紙の大きさはA4サイズを標準とする。長さは日本語の場合はA4用紙30枚を超えない程度とする（いずれの場合も図表を含むものとする）。他の言語の場合もこれらに準ずる。以上の内容に依りがたい時は編集委員と協議して決めることとする。

脚注は、本文中の該当箇所の右肩に一連番号を打ち、注そのものは当該ページの下部に記入する。各章毎、あるいは本文末に注をまとめる場合も、注番号は当該箇所の右肩に一連番号で示すこととする。

提出時に総字数を示すこととする。

5. 参考文献

参考文献は、原則として以下の要領で記載する。

(1) 和文の参考文献

1) 雑誌

著者名、表題、雑誌名、巻数（号数）、（刊行された西暦年）

2) 単行本

著者名、署名、発行所、ページ数、（発行された西暦年）

3) 編著書の中の1章又はシリーズの中の1巻

著書名、章名、編者（又は監修者）名、書名、発行所、ページ数、（刊行された西暦年）、
又は著書名、書名、編者（又は監修者）名、シリーズ名、第XX巻、発行所、ページ数

4) その他の参考文献については、上記1)、2)、3)に準ずる。

(2) 欧文等の参考文献の場合

上記(1)に準ずる。ただし、書名などについては、主な単語（Word）、固有名詞などは大文字で書き始めること。

6. 図表

- ① 図は著者の作成したものをそのまま印刷するので、黒インクで浄書（トレース）すること（ワープロ印刷でも可）。トレース等が困難な場合にはトレース料は自己負担とする。
- ② 図は、なるべく白紙に黒インクで大きめに書くこと。又、各図は一枚毎に別々の用紙に書くこと。
- ③ 図中の文字数字等は写植されるので、正確に書くこと。大文字と小文字、イタリック体、ゴシック体などの違いにも注意すること。
- ④ 図（写真を含む）及び表には必ず名称を付けること。
- ⑤ 図表の番号は、それぞれが本文に現れる順にしたがって、通し番号で付けること。又、本文中の各図表の挿入箇所は明確に指示すること。
- ⑥ 各図表の作成に使用した資料あるいは文献は、必ず注として明記すること。

7. 原稿の提出

原稿は本文のハードコピー2部及びFD等に収録したもの（ワープロのフォーマット形式及びテキスト形式の両方）で編集可能なものに、それぞれ一枚ずつ別々の用紙に作成した図表を付けて提出するものとする。

FD等のラベルに、著者名、主タイトル、及び使用した機種名・ソフト名（バージョン数）をできるだけ詳しく記載する。

附則

この要領は平成17年4月1日から施行する。

附則

この要領は平成19年4月1日から施行する。

ライフデザイン学研究第9号 編集委員

是 枝 喜代治 (生活支援学科)

井 上 治 代 (健康スポーツ学科)

高 橋 健 介 (生活支援学科)

水 村 容 子 (人間環境デザイン学科)

Editorial Board

KOREEDA Kiyoji (Department of Human Care and Support)

INOUE Haruyo (Department of Health Care and Sports)

TAKAHASHI Kensuke (Department of Human Care and Support)

MIZUMURA Hiroko (Department of Human Environment Design)

ライフデザイン学研究 第9号

2014年3月31日発行

発行者 東洋大学ライフデザイン学部

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

TEL048(468)6311(代) FAX048(468)6320

印刷所 株式会社 美巧社

Journal of Human Life Design

NO.9

Contents

KOBAYASHI Hideyoshi Prefatory Note	3
Messages from Retired Persons	
SHIBATA Noriko	4
NOMURA Toyoko	5
Articles	
ASANO Izumi, TSUJI Yasuyo, YOSHIURA Toru A Study on Care for the Elderly on the Waiting List for Special Nursing Homes for the Aged — From the Interviews with Families with Senior Citizens on the Waiting List for Admission to A City Special Nursing Home for the Aged, A (2) —	9
IKEDA Chitose A Study on the Effect of Creative Activities in the Process of Recovery from Deep Grief	29
OGINO Takahito The Challenges of the Public Assistance for Promotion of Convention Refugee's Settlement in Japan — Comparison with the Public Assistance in the United States —	47
KANKI Yumi The Issues of Citizen Proposal System for Barrie-free Basic Design	57
KIKUCHI Noritaka La croyance à la Notre Dame de Grâce et son iconographie à la fin du moyen âge en France	83
KIKUCHI Yoshiaki Foster Care System in Okayama Orphanage and Appearance of District Facilitators — a Case Study of Mayashita Village, Mitsu County —	97
KITA Shingo Study of the Braun T4 Speaker Grill —Using a Generative Design Technique—	119
KUSAKA Shota, TAKAHASHI Masato, OHSAKO Masafumi Effects of Exercise Following Short-term Immobilization Structures of Tibial Cancellous Bone in Rats	137
KOHNO Hiroshi, ASAI Hidenori Development of Fear-of-Fall Risk Prevention Program Using Behavior Science.	151
KOREEDA Kiyoji Development of School Social Work in Japanese High Schools —Based on School Consulting Support—	161
SHINOZAWA Kaoru Intervention to Maintain the Conversation with a Student with Autism Spectrum Disorder	179
SUGETA Riichi The Socialization of the Adult Guardianship System — Focusing on Self-Determination and Selection of the Adult Ward	191
SUZUKI Takayuki A Study on the Formation Process of the Ryukyu Government Child Welfare Act. —From the Point of View of Genkichi Tomari's Work—	199
SUZUKI Tomoko, SHIMAZAKI Hirotsugu, MATSUI Junichi A Study on the Children's Sports Department of the TSV Bayer 04 Leverkusen	233
TAKAHASHI Kensuke, Nakayama Masaki, NAKADA Sachiko, INOKOSHI Megumi Meaning of Early Childhood Education and Care to Have Thought Much of the Making Corner in the Three-Year-Old Class —Forming Group and Play by Synchronism of Motions—	269
TAKAHASHI Masato, NISHIMOTO Tetsuya, OHSAKO Masafumi Study on Structural Changes in Tibial Cancellous Bone with Mechanical Loading After Short-term Immobilization in Rats	285
TSUJI Yasuyo, ASANO Izumi, YOSHIURA Toru A Study on Cares for the Elderly on the Waiting List for Special Nursing Homes for the Aged (Part1) —The Situation of Application for Other Homes by People Waiting for Admission for a Special Nursing Home—	303
NISHIMURA Miho, KITANO Miyabi The Way the Medical Scene Is Described in Picture Books	319
NISHIMOTO Tetsuya, TAKAHASHI Masato, OHSAKO Masafumi Effects of Mechanical Stress on Bone Structures of Muscle-attaching Portion in Growing Rats	333
FUKAYA Hideki The Argument in Japanese People —Be Based on Analysis of "The Gentle 12"—	349
MIKI Ryoko The Study of "Life" "Mental Health" and "Welfare" for the Refugees in Japan	365
WATANABE Hiromi Innovation in 24Hour Home Care in Denmark	383
Review	
SAKAGUCHI Masaharu About the History and the Function of Mess Kit	409
Research Notes	
SHIBATA Noriko A Report on Activities of Innovative Care Services in Small Multi-Care Facility, and Interviewing about Users' and Their Families' Thinking Through Tea Parties	417
Research Materials	
KANEKO Motohiko Challenges of the Present and Future in Japanese Badminton for Disabled People — As I proposed —	443
Research Project Reports in the Faculty of Life Design	
MATSUI Junichi, YONEDA Ikuo, SUGITA Kiyoko, SHIMAZAKI Hirotsugu, FURUKAWA Satoshi KANEKO Motohiko, SUZUKI Tomoko Research report of the department for sports for people with disabilities, the department for children's sports and the department for health sports regarding the health sports program/ methods of instruction in use at the Sportsclub TSV Bayer	453
NOMURA Toyoko, KOHNO Hiroshi, YAMAMOTO Mika Active Senior Program in Kamakura City	465
TAKAHASHI Yoshiyuki, KITA Shingo, TAKAHASHI Gihei Preliminary Study of Platform Fall Prevention System for the People with Visual Impaired	471
TAKANO Tatsuaki, INOUE Haruyo, KIUCHI Akira Research on the Life Support Policy for Elderly People in the Process of End-of-Life Care from Long-Term Care.	475